

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南小倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

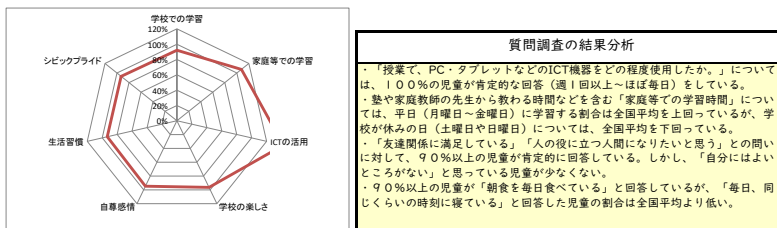
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」に関して、全国平均より正答率が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	下回っている
	努力が必要な問題	・文の中における主語と述語との関係を捉えること。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・「速さの意味についての理解」や「球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉えて求積を立式すること」に関して、全国平均より正答率が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・除数が少数である場合の除法の計算をすること。	下回っている
	努力が必要な問題	・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。 ・直方体の見取り図について理解し、かくこと。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・「学習のまとめを児童自身が考えて書く」「短文で書く」等、児童が考えを記述する機会を意図的に設けることで、書く力・考えを記述する力の定着を目指している。今後も継続して、取り組んでいく。
- ・算数科では、単元によっては個別学習・補充学習を行い、「誰一人取り残さない学び」の実現に向けて、学校全体で取り組んでいる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「学年×10分」の学習時間を目安として、家庭での学習習慣の定着を目指している。また、今年度も継続して取り組んでいる「学びワーク」（自主学習推進の取組）では、自主学習ノート活用を推進したり、家庭での学習内容を工夫したりして、児童自身が学びのよさを実感できるような取組となるよう、学力向上推進部を中心に検討して実践につなげている。